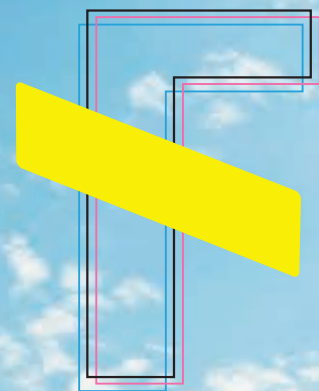


# 福津市



For your  
Future  
Fukutsu

## 幸福のバトン

福津の未来はあなたの未来。  
市制20周年を迎えた福津市が  
未来につなぎたい幸福のバトナー。

市  
制  
20  
周  
年  
記  
念  
誌



人も自然も  
未来につながるまち、福津。

福津市20周年記念誌を音声で聞けます。音訳は「音読ボランティアふくつ」の皆さんです。



# 2025

福津市市制20周年記念誌

発行/令和7年8月

〒811-3293 福岡県福津市中央1丁目1-1

<https://www.city.fukutsu.lg.jp>

福岡県 福津市  
FUKUTSU-CITY



# Fukuoka City

## 福津市の概要

福津市は、福岡県の北部で福岡市と北九州市の間に位置し、北東側は宗像市、南東側は宮若市、南側は古賀市に隣接しており、西側は玄界灘に面しています。また、東部を山、西部を海に囲まれ、特に海岸一帯と宮地嶽神社周辺の山林は、昭和 31 年に玄海国定公園に指定され、風光明媚な自然景観を形成しています。福津市は交通の利便性が良いことから、宮地嶽神社や津屋崎・福岡海岸などを中心とした観光レクリエーションの場として、また、福岡・北九州両政令市への通勤・通学の利便性を背景とした住宅地域として、さらには、新鮮な食料品の生産供給地域としての広域的な役割を担っています。

## もくじ CONTENTS

### プロローグ\_幸福のバトン

#### 02 福津市の 20 年

#### 04 福津を率いたまちおこし 藍の家／人のチカラ

#### 08 未来につなぐ幸福のバトン 1 ウミガメと生きる都市

#### 10 未来につなぐ幸福のバトン 2 郷づくりのチカラ

#### 12 未来につなぐ幸福のバトン 3 一生の学び 郷育カレッジ

#### 14 未来につなぐ幸福のバトン 4 世界に誇る福津の歴史

#### 16 未来につなぐ幸福のバトン 5 津屋崎祇園山笠

#### 18 わたしたちがつなぐバトン 福津の仕事人／まちづくり奮闘記

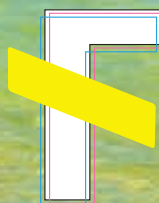
#### 22 (ふくつなぎ) ～福津市の未来をつなぐ若者トークセッション～

#### 26 市民投票 未来につなぐ福津 RANKING

#### 30 ハタチの福津市

#### 31 市長 Message

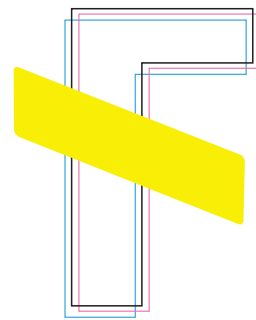
#### 32 エピローグ\_well-being のその先へ



## 幸福のバトン

For your  
Future  
Fukuoka

prologue



For your  
Future  
Fukuoka

## 幸福のバトン

平成17年1月24日、旧福岡間町と旧津屋崎町が合併し、「福津市」が誕生して20年。

「福津市」が誕生して20年。地方分権の流れの中で、いち早く地域力・市民力、そして対話をまちづくりに取り入れ、共働のまちづくりを体現してきた福津市。

この20年の飛躍を振り返るとともに、福津市を支えてきた多くの福津市民の想いと絆を集結し、これからの未来へとバトンをつなぐ記念誌「福津市「幸福のバトン」」を制作しました。

幸福や多くの人が集まる津(港、場所)という意味が込められた「福津市」の名のもと、私たちが目指す幸福なまちを改めてともに考え、新たな未来を切り拓いていくことができるよう、市民の皆さまとの対話の記念誌となることを願っています。

pick up /



表紙は、海岸で大きくジャンプする、当時中学1年生の三次さん。市章のように、未来に向かって駆け抜けていこうという強い意志と躍動感を表現しました。



現在の人口▶まもなく7万人！

69,280人

一時5万5千人台まで減少したものの、その後は年々増加していきました。

住み続けたい街ランキング (2023)

福岡版 1位

不動産会社による街の住みこちランキングで高く評価されました。

- 2025 福岡市が市制20周年を迎える／旧玉乃井旅館が国の登録有形文化財に登録
- 2024 指定／津屋崎祇園山笠復活50周年
- 2024 豊村酒造旧醸造場施設が国の重要文化財に指定／津屋崎祇園山笠復活50周年
- 2023 共同参画都市宣言20周年
- 2023 福岡市基幹相談支援センターが始動／男女共同参画都市宣言20周年
- 2022 フアミリーシップ宣誓制度を導入／郷育カレッジ20周年／福岡市未来共創センターキッカケラボを開設／福岡市ゼロカーボンシティ宣言
- 2022 藍の家が築120年／パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を導入／郷育カレッジ20周年／福岡市未来共創センターキッカケラボを開設／福岡市ゼロカーボンシティ宣言
- 2021 新型コロナワクチンの接種が始まる／東京2020オリンピック聖火リレー／ふくつ古墳馬車の運行終了
- 2019 お魚センターうみがめがリニューアル／SDGs未来都市に選定される
- 2018 福岡市イメージソング『You're my home』が完成／来店客が激減する市内の飲食店を「#福岡エール飯」で応援／子育て支援アプリ「こどもの国」を導入
- 2017 津屋崎庁舎を改装しカメラアステージが開館／「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群がユネスコ世界遺産一覧表に記載される
- 2016 市役所を福岡庁舎に統合／津屋崎行政センターが開所／宮地嶽神社「光の道」が注目される
- 2015 市制10周年記念式典を開催／市の木を「松」、市の花を「あんずの花」「菜の花」に決定／人口が6万人に到達／「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群が世界文化遺産推薦候補に決定
- 2014 福岡県東土地区画整理事業が完了。日蔭野地区誕生／津屋崎祇園山笠が発足300年、復活40周年を迎える／宮地浜に夕陽風景時計が設置される／畦町に世界一小さな蚕博物館が完成
- 2013 福岡市児童センターFUCSTAが開館／男女共同参画都市宣言10周年
- 2012 イオンモール福岡がグランドオープン／福岡暮らしの旅が始動
- 2011 JR福岡駅の自由通路が開通／福岡市行政・観光情報ステーション「ふくつく」が開館／ふくつの綱茶づけフェアが始まる
- 2009 「宗像・沖ノ島と関連遺産群」が国内の世界遺産暫定一覧表に追加記載される／福岡市まちおこしセンター「津屋崎千軒なごみ」が開館／福岡ブランド「福岡の極み」が商標登録される
- 2008 福岡・宗像市の上下水道事業を宗像地区事務組合に統合／市道「四角両谷線」・「西郷新橋」が開通
- 2007 西鉄宮地岳線の一部（新宮〜津屋崎）が廃線となる／「郷づくり」活動が始まる／津屋崎千軒民俗館藍の家の主屋と井戸屋形が市内で初めて国の登録有形文化財に登録
- 2006 「津屋崎千軒通り藍の家」が第18回福岡県美しいまちづくり賞優秀賞を受賞／福岡市観光協会が発足／福岡県東土地区画整理事業で本格的な造成工事に着手／福岡市地域包括支援センターを開設／のびのび発達支援センターを開設
- 2005 福岡市誕生／津屋崎古墳群が国指定史跡に登録される／福岡市魚センターがグランドオープン
- 2006 「津屋崎千軒通り藍の家」が第18回福岡県美しいまちづくり賞優秀賞を受賞／福岡市観光協会が発足／福岡県東土地区画整理事業で本格的な造成工事に着手／福岡市地域包括支援センターを開設／のびのび発達支援センターを開設
- 2008 福岡市児童センターFUCSTAが開館／男女共同参画都市宣言10周年
- 2011 JR福岡駅の自由通路が開通／福岡市行政・観光情報ステーション「ふくつく」が開館／ふくつの綱茶づけフェアが始まる
- 2012 イオンモール福岡がグランドオープン／福岡暮らしの旅が始動
- 2013 福岡市児童センターFUCSTAが開館／男女共同参画都市宣言10周年
- 2014 福岡県東土地区画整理事業が完了。日蔭野地区誕生／津屋崎祇園山笠が発足300年、復活40周年を迎える／宮地浜に夕陽風景時計が設置される／畦町に世界一小さな蚕博物館が完成
- 2015 市制10周年記念式典を開催／市の木を「松」、市の花を「あんずの花」「菜の花」に決定／人口が6万人に到達／「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群が世界文化遺産推薦候補に決定
- 2016 市役所を福岡庁舎に統合／津屋崎行政センターが開所／宮地嶽神社「光の道」が注目される
- 2017 津屋崎庁舎を改装しカメラアステージが開館／「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群がユネスコ世界遺産一覧表に記載される
- 2018 福岡市イメージソング『You're my home』が完成／来店客が激減する市内の飲食店を「#福岡エール飯」で応援／子育て支援アプリ「こどもの国」を導入
- 2019 お魚センターうみがめがリニューアル／SDGs未来都市に選定される
- 2020 オリピック聖火リレー／ふくつ古墳馬車の運行終了
- 2021 新型コロナワクチンの接種が始まる／東京2020オリンピック聖火リレー／ふくつ古墳馬車の運行終了
- 2022 藍の家が築120年／パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を導入／郷育カレッジ20周年／福岡市未来共創センターキッカケラボを開設／福岡市ゼロカーボンシティ宣言
- 2023 共同参画都市宣言20周年
- 2024 豊村酒造旧醸造場施設が国の重要文化財に指定／津屋崎祇園山笠復活50周年
- 2025 福岡市が市制20周年を迎える／旧玉乃井旅館が国の登録有形文化財に登録

令和2年国勢調査

人口増加率全国 6位

令和2年の国勢調査にて、福岡市は人口増加率全国6位となり注目を集めました。



豊村酒造旧醸造場施設が国の重要文化財に指定

2020. グッドデザイン賞受賞

九州大学や市民との共創によって制作した「子育てサービスマップ」「子育て支援ガイドブック」「子育て支援アプリ」が市民に分かりやすい行政サービスを構築したとしてグッドデザイン賞を受賞しました。

2025.3



旧玉乃井旅館が国の登録有形文化財に登録

SDGs 未来都市に選定

持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けて戦略的に取り組む自治体として選定され「市民共働で推進する幸せのまちづくり」をテーマに取り組を進めています。



第二次まちづくり計画  
「人も自然も  
未来につながるまち、  
福岡」

旧津屋崎庁舎は、市複合文化センター「カメラアステージ」へ



- 2014 福岡県東土地区画整理事業が完了。日蔭野地区誕生／津屋崎祇園山笠が発足300年、復活40周年を迎える／宮地浜に夕陽風景時計が設置される／畦町に世界一小さな蚕博物館が完成
- 2015 市制10周年記念式典を開催／市の木を「松」、市の花を「あんずの花」「菜の花」に決定／人口が6万人に到達／「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群が世界文化遺産推薦候補に決定
- 2016 市役所を福岡庁舎に統合／津屋崎行政センターが開所／宮地嶽神社「光の道」が注目される
- 2017 津屋崎庁舎を改装しカメラアステージが開館／「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群がユネスコ世界遺産一覧表に記載される
- 2018 あんずの里市がリニューアル／県道飯塚福岡線 見坂トンネル開通／地域商社「福津いいさい」を設立／古賀市と共同で東京2020オリンピックルーマニア柔道チーム事前キャンプ基本合意書に調印
- 2019 お魚センターうみがめがリニューアル／SDGs未来都市に選定される
- 2020 福岡市イメージソング『You're my home』が完成／来店客が激減する市内の飲食店を「#福岡エール飯」で応援／子育て支援アプリ「こどもの国」を導入
- 2021 新型コロナワクチンの接種が始まる／東京2020オリンピック聖火リレー／ふくつ古墳馬車の運行終了
- 2022 藍の家が築120年／パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を導入／郷育カレッジ20周年／福岡市未来共創センターキッカケラボを開設／福岡市ゼロカーボンシティ宣言
- 2023 共同参画都市宣言20周年
- 2024 豊村酒造旧醸造場施設が国の重要文化財に指定／津屋崎祇園山笠復活50周年
- 2025 福岡市が市制20周年を迎える／旧玉乃井旅館が国の登録有形文化財に登録

2017.7



「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群がユネスコ世界文化遺産登録

新原・奴山古墳群を含む「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群が世界文化遺産に登録されました。諮問機関であるイコモスが5月に出した厳しい勧告から一転、逆転での全資産一括登録に市民や関係者は歓喜の渦に包まれました。



児童センター FUCSTA（フクスタ）開館

まちおこしセンター 津屋崎千軒なごみ開館

2007.5



「郷づくり」スタート  
「地域分権」のまちづくりを目指して

「郷」という字には「古里」という意味があります。そこで、みんなの力で温かな「古里」をつくらうという願いを込めて「郷」を「さと」と読み、地域づくりのことを「郷づくり」と名付けました。

- 2009 「宗像・沖ノ島と関連遺産群」が国内の世界遺産暫定一覧表に追加記載される／福岡市まちおこしセンター「津屋崎千軒なごみ」が開館／福岡ブランド「福岡の極み」が商標登録される
- 2010 福岡・宗像市の上下水道事業を宗像地区事務組合に統合／市道「四角両谷線」・「西郷新橋」が開通
- 2011 JR福岡駅の自由通路が開通／福岡市行政・観光情報ステーション「ふくつく」が開館／ふくつの綱茶づけフェアが始まる
- 2012 イオンモール福岡がグランドオープン／福岡暮らしの旅が始動
- 2013 福岡市児童センターFUCSTAが開館／男女共同参画都市宣言10周年
- 2014 福岡県東土地区画整理事業が完了。日蔭野地区誕生／津屋崎祇園山笠が発足300年、復活40周年を迎える／宮地浜に夕陽風景時計が設置される／畦町に世界一小さな蚕博物館が完成
- 2015 市制10周年記念式典を開催／市の木を「松」、市の花を「あんずの花」「菜の花」に決定／人口が6万人に到達／「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群が世界文化遺産推薦候補に決定
- 2016 市役所を福岡庁舎に統合／津屋崎行政センターが開所／宮地嶽神社「光の道」が注目される
- 2017 津屋崎庁舎を改装しカメラアステージが開館／「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群がユネスコ世界遺産一覧表に記載される
- 2018 あんずの里市がリニューアル／県道飯塚福岡線 見坂トンネル開通／地域商社「福津いいさい」を設立／古賀市と共同で東京2020オリンピックルーマニア柔道チーム事前キャンプ基本合意書に調印
- 2019 お魚センターうみがめがリニューアル／SDGs未来都市に選定される
- 2020 福岡市イメージソング『You're my home』が完成／来店客が激減する市内の飲食店を「#福岡エール飯」で応援／子育て支援アプリ「こどもの国」を導入
- 2021 新型コロナワクチンの接種が始まる／東京2020オリンピック聖火リレー／ふくつ古墳馬車の運行終了
- 2022 藍の家が築120年／パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を導入／郷育カレッジ20周年／福岡市未来共創センターキッカケラボを開設／福岡市ゼロカーボンシティ宣言
- 2023 共同参画都市宣言20周年
- 2024 豊村酒造旧醸造場施設が国の重要文化財に指定／津屋崎祇園山笠復活50周年
- 2025 福岡市が市制20周年を迎える／旧玉乃井旅館が国の登録有形文化財に登録

福岡駅周辺インフラ整備

2004～2014



国道3号と市街地を結ぶ道路網の整備や、JR福岡駅の利便性を活かした福岡市の「核づくり」として、住宅地と事業用地の整備を行いました。

Fuku City  
20th Anniversary

2005.1.24



福岡市誕生

福岡・津屋崎町それぞれで閉庁式を行い、1月24日に福岡・津屋崎庁舎で開庁式を行いました。

市民とともに、地域とともに歩んだ福岡市の20年の時を刻む



誕生（合併）の背景

福岡市

市の名称「福岡市」には「幸福が集まる津（港、場所）」や「津々浦々まで幸福であるように」などの思いが込められています。市の名称を募集した際には、全国から3,064通（698種類）が寄せられ「北筑前市」「宮地岳市」「うみがめ市」などのアイデア溢れる名称の中から福岡市が選ばれました。

合併時の人口

56,502人





戸袋の使い方の実演は、誰もがその構造と工夫に驚きました



福津市の子どもたちに藍の家の歴史と貴重さを伝えてきました



国有形文化財登録式典の登録プレート披露式（平成20年）

## 「藍の家」を中心とした津屋崎千軒のあゆみ

- 1901年（明治34年）・約200年前に創業した旧染物屋（紺屋）の上妻家の住居として、現在の藍の家が建てられる
- 1992年（平成4年）・建築後90年余り経過し、老朽化したことから取り壊されることに。しかし、その歴史的価値の高さと街並み保存のため保存活動が始まる
- 1993年（平成5年）・津屋崎町街並み保存協議会結成
- 1994年（平成6年）・「津屋崎千軒民俗資料館藍の家」に名称決定
- 旧津屋崎町と街並み保存協議会が、藍の家保存・管理に関する協定書に調印
- 「街並み保存協議会」が「藍の家運営協議会」に名称変更
- 建物が津屋崎町に寄贈される
- 2002年（平成14年）・「藍の家運営協議会」と「津屋崎千軒いきいき夢の会」が統合。藍の家の運営は「藍の家部会」の活動となる
- 2007年（平成19年）・主屋と庭園の井戸屋形が国の登録有形文化財として文化財登録原簿に登録される
- 国の有形文化財登録記念コンサート「趙国良胡弓（こきゅう）の夕べ」を開催
- 2008年（平成20年）・NPO法人津屋崎千軒いきいき夢の会から「藍の家保存会」が事業を引き継ぐ
- 藍の家の土地を市が取得。藍の家保存会が市と連携し、国登録有形文化財藍の家の保存と地域交流を深める活動に務める
- 2022年（令和4年）・津屋崎千軒民俗館 藍の家百二十周年記念イベント開催
- 2024年（令和6年）・豊村酒造旧醸造場施設が国重要文化財に
- 2025年（令和7年）・旧玉乃井旅館が国登録有形文化財に



保存協議会の原点となった第1回学習会（平成5年）



藍の家の補習作業を行う原田活男さんと秦信男さん



節句人形展で集合写真を撮る保存協議会役員（平成7年）

# 藍の家

Fukutsu City  
20th Anniversary



「藍の家」保存をめぐる  
地元住民の奮闘と  
津屋崎千軒への想いを未来へ



原田活男さん

柴田治さん

福津を率いたまちおこし



## 「藍の家」保存 をめぐる歴史



「津屋崎千軒」は、明治時代、塩田と海上交易によって繁栄した津屋崎の様子を「人家が千軒もあるほどに繁栄しているまちだ」と表現されるほどの街並みでしたが、塩田の廃止とともに衰退。豊村酒造と上妻邸（現在の藍の家）は、当時の面影をしのげる貴重な存在でしたが、とうとう上妻邸に解体の話が持ち上がります。その流れに抗い立ち上がったのが住民団体「津屋崎町街並み保存協議会（以降、保存会）」。

津屋崎人形師の原田活男さんが初代会長、柴田治さんが事務局長として「保存が実現できるかどうかは自分たちの強い意志とそれを示す行動だ」という信念のもと、何とかして津屋崎の豊富な資源、自然、歴史文化を子どもたちに残そうと専門家も交えた学習会をスタート。保存・活用を徹底的に話し合い、保存会の会員一人一人が知恵を持ち寄って街並み保存の必要性を呼びかけ、津屋崎町への陳情書や請願書の提出を繰り返しました。やがてその熱意は大きな地域の渦となり、社会現象を巻き起こします。活動は「スコミ」などでも大きく取り上げられ町内外からの反響や共感も味方に、平成6年、津屋崎町から上妻邸の保存が承認され、その4年後には全運営費を町が負担することが決定しました。地域の未来を想う人の情熱と使命感が町をも動かし、歴史的な出来事となりました。

## 津屋崎千軒の 価値を未来へ



その後、原田さん、柴田さんの相次ぐ逝去によって、大きな舵取りを失っていた保存会に再び光をもたらしたのは、柴田さんの妻、富美子さんでした。「藍の家を文化財にするんだ」という治さんの意志を継いで自ら学び申請書を国に提出。平成19年、藍の家の主屋と井戸屋形が福津市第1号の国登録有形文化財の認定を受けました。現在は「藍の家保存会」と改名し、保存協議会発足当時から活動してきた女性を中心に津屋崎の活性化に取り組んでいます。令和4年には藍の家の百二十周年記念イベントが盛大に執り行われ、令和6年には、ともに津屋崎千軒の街並みを守り続けてきた豊村酒造が国重要文化財へ登録されました。津屋崎千軒は、先人たちの生き様とともに、今なおその価値を私たちに伝え続けています。

国重要文化財  
「豊村酒造旧醸造場施設」  
有形文化財（建造物）の重要文化財指定は福津市において初めての事です。



藍の家保存会代表  
古閑由美さん

「藍の家」は、多くのボランティアが、できることを持ち寄り、人の力で紡がれています。思い出深いのは藍の家の百二十周年祭。多くのかたにこの藍の家の活動の重要性を発信していただき、改めて残すべき人の想いが詰まった素晴らしい家であったと実感することができました。まちの核は歴史に色濃く残っています。このまちで愛されて育ち、そして誇りある歴史とともに生きることができれば、子どもたちの未来は大きく変わると確信しています。



「藍の家」の保存活動は、住民の輪が広がり、行政をも動かす社会現象となって成し遂げられましたが、そこに至るもつと以前から津屋崎の自然と史跡を残そうと奮闘した、今は亡き多くのかたがたの生き様を無くしては語れません。原点であろう「暮らしを考える会」の魂が今の津屋崎の未来を切り拓いたと思っています。「藍の家」の活動は私にとって人生そのもの。そこに紡がれた先人たちの感性や想いが一緒に受け継がれることを願っています。

藍の家保存会初代会長  
柴田富美子さん



●福津市の農業

カリフラワーの栽培が盛んなほか、イチゴやキャベツ、米・麦・大豆の生産も盛んです。農業委員会、普及指導センター、活性化機構、農業協同組合等と連携を図りながら、農業を担う人材の育成や就農後の定着、経営展開、地域全体での農用地の確保・有効利用を図っています。



魅力ある農業形態をつくっていききたい

interview

○農家 麻生正雄さん

50年近く市内で米・麦・大豆を生産しています。耕作している農地の多くは、病気や高齢で農業を続けられなくなったかたから託された農地で、市全体で57ヘクタールの農地を法人管理しています。福津市でも農家が年々減少していて、分散している土地を集積して農地の有効活用を図るように、農家同士で、何度も話し合い協力して地域の土地を守っています。今後は、30〜40代の若い農家さんたちにも、関わってほしいと思っています。ここ福津市には、農地も協力体制もあります。地域の農地を守りながら、農地を活用した魅力ある新しい農業形態をつくっていききたいと思っています。



漁師になって45年。代々続く漁師家系だったので幼いころから海とともに暮らしがありません。多くを語らない父でしたが、高校を卒業し、漁師を継ぐと伝えたときは喜んでくれたと思います。津屋崎は通年で魚が獲れ、冬場は沖に出て、春は水イカ、夏は潜水など狙う獲物によって漁の仕方も船も変わるところが特徴です。漁師間で仲が良く、夏場の藻の再生事業やカキの養殖事業など、すぐに協力し合える同じ方向を向いた仲間ばかり。次世代も少しずつ育っています。特に津屋崎にはお魚センターがあり、魚を選ぶお客さんと直に接することができるのは励みになりうれしいですね。旬のおいしい魚をぜひ食べてほしいです。



●福津市の漁業

福間・津屋崎に漁港を備えていて、福間漁港における船当たりのマダイの水揚げは県内有数です。また、カキの養殖などの取り組みも進めていて、育てる漁業を視野に入れながら、所得の向上、技術の継承、担い手の創出を進めています。

# 農業

私たちは、日々誰かに支えられて生きています  
人のチカラこそ福津市を明日へ率いていきます

# 漁業

# 子育て

福津を率いたまちおこし

# 人のチカラ

# 福祉



●福津市の子育て

令和6年4月、こども家庭センターを開設。妊娠期から概ね18歳までの子どもとその家庭を対象に、一人一人に寄り添ったつながりのある子育て支援を行っています。市公式ホームページや子育て支援アプリ「こどもの国」を用いた多彩な子育て情報の発信にも力を入れています。

福津市内に助産院を構えて13年になります。助産師として、産後ケアや市内3中学校での妊娠・出産の出前講座、赤ちゃんが誕生したご家庭を訪問する市の「赤ちゃん訪問事業」などに携わっています。合併後は子育て世帯の増加が続く、多いときは月に50件以上訪問すること。核家族化が進み、身近に子育てのロールモデルが少ない中で出産・子育てをする家庭が増えていますが、時には誰かに頼り、頼られ、互いに支え合えることが大事だと思います。妊娠・出産・子育ては何も「特別なこと」ではなく、今も昔も私たちの暮らしの中にあるもの。自分や子どもの持つ力を信じ「未来につながる妊娠・出産・子育て」であってほしいですね。



市と団体の共同事業で「健康レクサポーター養成講座」を受けたことを機に「これからはこれだ。せつかく学んだことを地域に還元して伝えていきたい」との思いから、当時の受講メンバーとともに平成30年にこの「健康レクサポーターの会」を立ち上げました。現在会員は50人ほど。毎月1回専門の講師を招いて、認知症予防、口腔機能の向上など介護予防全般の研修を行っています。それをもとに地域のサロンなどに出向いて活動を行っています。地域の「通いの場」は、地域の皆さんにとっては元気をもらえる場所です。定期的な人とのふれあいはとても大切です。元氣と笑顔を渡ししながら、私も元氣をもらっています。



●福津市の福祉

健康寿命の延伸、生活習慣病の早期発見、発症予防・重症化予防に向けた健診（検診）受診率の向上、健康維持・増進のための生活習慣の改善に取り組むほか、乳幼児期から高齢期までライフステージに応じた健康づくりを行っています。

未来につながる妊娠・出産・子育てを

interview

○にじいろ助産院 助産師 益永孝子さん

みんなに会えて元氣をもらえる場所に

interview

○健康レクサポーターの会 中島美和子さん

福津市の貴重な動植物



ハマガニ



カブトガニ



クロツラヘラサギ



アマモ



ハマボウ



アカウミガメ

# ウミガメと 生きる都市

Baton to the future

未来につなぐ幸福のバトン

1

今一度考えたい  
たくさんの自然と生命が  
ともに生き続ける福津市へ

全国唯一の「うみがめ課」で福津市の環境を大切に守っています

津屋崎干潟は、砂の多い場所や泥の多い場所が混在していることで多くの生き物が生息する全国的にも非常に貴重な干潟ですが、漂着ゴミなどでハマボウの生育やカブトガニの産卵にも影響を与えるなど多くの危機に直面しています。大切な地域遺産を後世に引き継いでいくため、干潟まもり隊では長きにわたり地域や市と協力して、清掃活動や自然観察会、植物の生育保護に取り組んできました。最近では、企業も環境意識が高まり多くの協力があって大変助かっています。地域のかた、若いかたと一緒に干潟や松林の命を守ってほしいと願っています。



干潟まもり隊  
寺島龍海さん



全国唯一の「うみがめ課」を有する福津市の環境

旧津屋崎町では、うみがめが産卵に来る貴重なまちであったことから、住民が親しみを持って環境を考えるきっかけとなるよう「うみがめ課」を発足しました。合併後も福津市では、環境全般に係るさまざまな活動を行っています。中でも「ラブアース・クリーンアップ」は、毎年多くの市民参加がある代表的な取り組みです。また、市内に数多く存在する環境団体、ボランティアの活動によって福津市の環境が守られてきました。市民間においても日頃から自発的にゴミ拾いをする姿が見られるなど環境意識の高い都市です。アカウミガメについては、残念ながら近年産卵の報告も少なく目撃はありませんが、負傷したアカウミガメの保護などを継続的にを行っています。美しい海岸だけでなく、福津市は干潟や里山など守るべき生態系が多くつながっていて、ゼロカーボンを含め地球規模の取り組みも始まっています。

福津市の環境の取り組みが  
全国の小学校教科書に掲載

子どもたちが環境を考えるきっかけを作るべく、小・中学校での環境教育を行っています。小学校では、松林の問題を身近なこととして積極的に質問があたり、中学校では、漂着ゴミや稀少生物などについて研究発表が行われていたり、光陵高校の生徒がうみがめ課に環境問題について尋ねに來たりと活発です。中でも、福津市のうみがめ保護の様子や「ふくつの自然を考える本」が全国の小学校の教科書に掲載されたことは、子どもたちにとりて誇らしい出来事でした。これからも生活の一部として環境を考え「暮らしと自然が織りなすまち福津」を市民の皆さんと一緒に目指していきたいと思っています。



福津市うみがめ課



© 国立大学法人九州工業大学 伊東啓太郎研究室 花田希里絵

広がる環境活動



3



2



1

- ① 海岸清掃を行う「砂草を守る会」
- ② カスミサンショウウオの研究を行う光陵高校「うみがめクラブ」
- ③ 上西郷川で子どもたちと生き物の観察をする「上西郷川日本一の郷川をめざす会」
- ④ 藻場のウニを駆除しブルーカーボンを創出する取り組みを行う漁師・宗像漁協津屋崎支所・トヨタ自動車九州の皆さん



PICK UP  
ふくつの自然を  
考える本



豊かな自然や生態系を100年後の世代に残そうと福津の自然環境について2年がかりで調査し制作した「ふくつの自然を考える本」。



4



1



3

これまでの取組



- ① 毎年市内全域で行うラブアース・クリーンアップ
- ② ふくつの自然を考える本を制作
- ③ 「環境フォーラム」で環境について考える機会を創出
- ④ 地球にやさしいゴミ分別方法を構築



PICK UP  
福津市  
環境基本計画



「暮らしと自然が織りなすまち“ふくつ”」を基本理念に、受け継がれてきた豊かな環境を未来へとつないでいきます。

未来につなぐ幸福のバトン

2

誇れる明日は  
自分たちの手で！

# 郷と のチカラ

人のつながり

子どもたちの未来を育む

強固なコミュニティ

**PICK UP**  
郷づくり計画  
8つの郷づくり地域の住民自らが、それぞれの実情に合わせて取り組む施策をまとめた行動計画です。



## 勝浦地域



勝浦地域郷づくり  
荻原哲夫さん

【地域データ】 地域人口：1,043 人  
力を入れている取組：マル勝まつり／古墳群周辺の植栽



勝浦平野

### 校区で連携し 地域の魅力発信へ

勝浦地域は、白砂青松の海岸線と低く連なる山々に囲まれた農村地域です。勝浦小学校と連携した事業展開で一体感を強めています。年末年始のイルミネーションや古墳群周辺の花の植栽などは、観光・帰省客にも喜ばれ、勝浦地域の魅力発信に寄与しています。今後、より生活に根付いた活動に育ってほしいと願っています。

## 神興地域



神興地域郷づくり  
富松亨一さん

【地域データ】 地域人口：6,554 人  
力を入れている取組：竹灯まつり／神興 KIZUNA らんち



神興 KIZUNA らんち

### 高齢化の課題を つながりで支える

農村地域と住宅地域で構成され、植樹した大漁桜をはじめ桜に囲まれた癒しの地域です。高齢化でイベントなどの継続も困難になってきましたが、子ども食堂や「あんずの里市」の協力で実施している買い物出張支援などで地域のつながりを支えています。今後も自治会と協力しながら地域に刺激を与える役割を果たしていきたいと思います。

## 神興東地域



神興東地域郷づくり  
木下重幸さん

【地域データ】 地域人口：7,519 人  
力を入れている取組：総合文化祭／郷づくりカフェ



虹のかけ橋じんとう祭

### 地域コミュニティの 維持につながる活動

農村地域と住宅団地で構成され、北部にJR 東福岡駅、中央部に高速バスが走る交通利便性の良い地域です。子育て・福祉など分野別に部会を立ち上げ、訪問や座談会を通じて自治会連携を深めています。郷づくりの活動によって防災や文化・環境に重要な地域コミュニティの維持や校区のまとまりができてくると感じます。

## 上西郷地域



上西郷地域郷づくり  
高木文明さん

【地域データ】 地域人口：2,715 人  
力を入れている取組：防災／ケアトランポリン



西郷川で生き物観察

### 地域のつながりを 防災に活かして

上西郷地域は、西郷川を中心とした美しい農村地域です。個性ある地域が集まって力を集結しています。区域が広いので、防災での助け合い、特に「組」単位での一時避難に力を入れています。高齢者同士の和が広がる行事もできつつありますが、周知が足りていません。地域にとって魅力ある自治会・郷づくりが必要だと思います。

## 津屋崎地域



津屋崎地域郷づくり  
楠田元明さん

### 安全で美しい環境を ともに未来へ

津屋崎地域は、自然豊かで歴史と文化の薫る人情味あふれる地域です。特に、子どもの見守りや夜間パトロールなどに力を入れており、青少年の非行や交通事故が減少し、また松林もきれいに整備され、今では市民の憩いの場となっています。これからは若い方の参加が鍵。若い力で地域がより活性化されることを願っています。



豊村酒造

## 宮司地域



宮司地区郷づくり  
梅野邦彦さん

### 持続可能な自治会 活動のコア

宮地嶽神社と宮地浜を結ぶ光の道を中心として住宅街が広がる地域です。特に尽力している「みやじ夏祭り」は、4,000 人もの参加があり祭りとして定着しています。単独自治会では難しい事業も連携により活動が続いています。価値観が多様化していく環境の中で、郷づくりは持続可能な自治会活動のコアになっていると感じています。



昔ながらの田植え体験教室

## 福岡地域



福岡地域郷づくり  
岡田和憲さん

### 広がるコミュニティと 地域ぐるみの輪

福岡市の人口の25%を抱え、規模拡大が進む福岡小・中学校を支える地域です。「白砂青松を後世に繋いでいこう！」をスローガンに、特に松林保全活動に取り組んでいます。最近では、家族や事業者の参加も増え、確実に地域ぐるみの輪が広がってきました。活動に関心を持ち仲間入りする人も現れ、後継者育成につながりつつあります。



中学生も一緒に行う松林保全活動

## 福岡南地域



福岡南地域郷づくり  
石原政道さん

### 若い地域と伝統ある 地域の連帯感

伝統ある地域、新しい住宅地、そしてイオンを抱える最近の福岡市発展の縮図とも言える地域です。主に高齢者の交流や子どもの安心安全、子育てサロンなどの活動を行っています。さまざまな行事を通して、高齢者の健康維持と子育て世代の一体感を醸成し、若い地域と伝統ある地域の連帯感を生み出ていると感じます。



南しょっとフェスタ

# 一生の学び 郷育カレッジ

豊かな人生は

もっと学びたい

という向上心から

郷育カレッジ生  
沖息吹さん

郷育カレッジでは、学校とは違う人たちに会えます。折り紙など、大人の人に教えてあげることありますし「これをしなさい」でも「全部やってくれる」でもないところや、自分でやりたいことを見つけて、子どもだけでも参加できるところが良いと思います。たくさんのお話を聞いてきましたが、いつか藍染めに挑戦してみたいです。

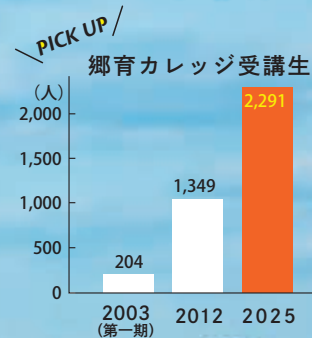
Baton to the future  
未来につなぐ幸福のバトン

3



これから「福津のことをもっと知りたい」を応援します

郷育カレッジは、福津市独自の生涯学習システムで、地域のひと・もの・ことを活かした講座を毎年提供しています。開校以来、ふるさとや生きがいなどの分野で学びを深める機会を提供し、地域で活動する市民自身が講師を務めていることも大きな特徴です。平成15年10月の開校以来、郷育カレッジは福津市における生涯学習の重要な役割を果たし、ともに学び合う循環型生涯学習システムを実現しています。カレッジ生は年々増加し、2025年度で2291人になるまでに成長しました。

郷育カレッジ 学長  
成清鉄男さん

郷育カレッジが、23年目を迎えた理由を考えたときに、一つは毎年100人前後増加している新規カレッジ生の「福津のことをもっと知りたい」という好奇心に支えられてきたことが大きい。また、地域素材の掘り起こしにおいて実行委員の努力や事務局の支えがあり、そして何より「地域のひと・もの・ことを掘り起こす」その軸がブレなかったこと。これが最も重要な要因であったと考えています。近年では、インターネットを介した取り組みやCS（コミュニティスクール）、防災教育に力を入れていて、つながりを深めています。子どもたちにも人生の先輩の知恵を伝えていく良いきっかけになればと思いますし、大人になっても「リカレント教育」といった学びの振り返りというものがあります。私自身も40代で、もう一度学び直したいという転機がありました。自分の知っていることを新しい観点から学び直すこと、それがその後の生き方にも重なっていきます。郷育カレッジは、福津市独自の循環型の生涯学習という表現をしています「福津市で学ぶ」ということが大事なキーワードです。地域のことを地域の人が学び伝えていくことに意義があります。それが、郷育カレッジが地域で育ててもらえる大きな礎になるはず。

日々の  
郷育カレッジ  
の取り組みは  
こちらから  
(Facebook)



- ①九州大学アクアフィールド科学研究所の学生から教わる「玄界灘の生き物にふれてみよう」  
②市内の神社にある絵馬に込められた祖先の思いを感じる「福津の絵馬を見てみよう」  
③宗像大社などを見学して古代の足跡を辿る「宗像の歴史めぐり（宗像大社編）」

福津のひと・もの・こと！  
もっと知りたい！



PICK UP/  
郷育カレッジ  
10周年宣言書

郷育カレッジ運営委員会は、開校からの10周年を記念してこれからの10年をさらに発展、深化していくための取り組みについて、平成25年7月に宣言書としてまとめました。



指定登録文化財

- ①恋の浦海岸
- ②在自西ノ後、墨書磁器
- ③赤御堂板碑
- ④波折神社の銀杏

History

福津市に残る  
貴重な文化財から  
福津の長い  
歴史を知る



世界遺産

いさば会  
有吉敏高さん

世界遺産登録となった日の喜びを忘れることはできません。この地を郷土の誇りとして、我々はずっと先の年代まで美しく守っていく使命があります。偉大な歴史の価値を無駄にせず 1500 年もの間守り継いできた地元の人たちの想いを全国に発信していきたいですね。

第41回世界遺産委員会において「新原・奴山古墳群を含む『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」が、8つの推薦資産全てを含み世界遺産に登録されました。登録へ向けた活動は15年。沖ノ島だけでなく、その関連遺産群まで含めた登録となった背景には、多くのかたがたの国をあげての地道な活動、地元の強い熱意があったことを忘れてはなりません。

「神宿る島」宗像・沖ノ島と  
関連遺産群の構成資産として

新たな価値を未来へ

新原・奴山古墳群の

世界遺産に登録された

世界遺産登録へのあゆみ  
 ■平成 17(2005) 年 3 月  
 新原・奴山古墳群を含む津屋崎古墳群が国指定史跡となる  
 ■平成 20(2008) 年 3 月  
 『国指定史跡 津屋崎古墳群 整備基本構想』(市計画)  
 ■平成 21(2009) 年 1 月  
 ユネスコ世界遺産暫定リストに記載される  
 ■平成 28(2016) 年 1 月  
 日本政府がユネスコ世界遺産センターへ登録推薦書を提出  
 ■平成 28(2016) 年 3 月  
 『国指定史跡 津屋崎古墳群 整備基本計画に関する再検討 - 新原・奴山古墳群の整備計画 -』(市計画)  
 ■平成 29(2017) 年 7 月  
 第 41 回世界遺産委員会 (ポーランド・クラブ) にて世界遺産登録が決定



Baton to the future

未来につなぐ幸福のバトン

4



九州大学名誉教授  
前「津屋崎古墳群」整備指導委員長  
西谷 正 先生



新原・奴山古墳群の  
世界遺産としての価値

PICK UP  
世界遺産登録



この壮大な歴史の価値を  
活かせるか!?

# 世界に誇る 福津の歴史



小学校で世界遺産を学ぶ  
佐藤 錬介さん

PICK UP



世界遺産楽習帳

世界遺産のあるまち  
福津市の役割

福津市に住む子どもたちが、学校の郷土学習などにおいて、わがまちの世界遺産を知り、現地で親しみ、さまざまなことを学び楽しむことが大事です。「新原・奴山古墳群」を専門家や一部の愛好家だけの問題にせず、福津市全体でふるさとを知った上で大切に守ってほしいと思っています。世界遺産登録された一時の盛り上がりで終わることなく、想いが継続されて次の世代にバトンタッチされていくことを期待しています。

イコモス(国際記念物遺跡会議)の現地調査において、沖ノ島は「古代祭祀の考古記録を保存する類まれな宝庫である」という表現で絶賛されました。「新原・奴山古墳群」は、古事記・日本書紀に記録されている、沖ノ島で古代祭祀を実際に執り行った「宗像君」(現在でいう福津市と宗像市を合わせて統括していた長)の存在を裏付ける遺跡として大変貴重な価値を有しています。当時、玄界灘を船で往来していた日本の航海と外交の無事を祈って、行くのも困難な沖ノ島で祀りを捧げた古代祭祀の実態を通じて、東アジアの国際交流の様子までうかがうことができる世界的に稀に見る遺産であり、それを立証する関連遺産群を含めてつづの世界遺産が成り立っています。

未来につなぐ幸福のバトン

5

# 津屋崎祇園山笠

300年以上の伝統を誇りに

時を超えてつなごう

熱気と歓声に包まれる津屋崎祇園山笠

「オイサツ」「オイサツ」  
三流れが駆け抜ける  
福津の熱い夏



歴史の語り手  
深田政武さん

## 津屋崎祇園山笠の歴史

江戸時代から300年以上続く津屋崎祇園山笠。昔は前を走る山が遅いと後ろの山がぶつかり「喧嘩山」といわれていたほどです。時代に合わせて代替わりしながら、ずっとまちを盛り上げていってほしいと願っています。



記念すべき復活50年祭 PICKUP

津屋崎祇園山笠は、約300年ほど前に博多祇園山笠の櫛田神社から波折神社に神様を迎え、疫病や災害退散を祈願して山笠を奉納したのが始まりといわれています。戦後、昇き手不足となり、昭和30年代に一時中断した山笠は、その後昭和50年に復活し、令和6年の復活50年祭は、より一層の盛り上がりを見せました。「北流」「新町流」「岡流」の3つの流れがあり、山笠期間中は昇き手の家族、地域が一丸となり山笠の成功を支えています。



50周年記念動画



掛け声とともに一気に山が動き、清い水、勢い水、力水をかぶりながら3つの山が勇ましく駆け抜けます。



筑前津屋崎人形巧房  
原田誠さん

私自身も小さなころは山笠に参加していました。おぼろげに昔から山笠の人形も手伝っていたのを覚えています。人形も時代とともに変化があり、戦いよりも駆除や退治という意味合いが増えてきました。伝統芸能もそうですが、文化を残していくには後継者が必要。子どものころから山に触れてほしいですね。



津屋崎祇園山笠振興会会長  
花田実さん

元々は山笠「保存会」でしたが、これからは保存だけでなく振興を図って津屋崎だけでなく福津市全体に知ってもらおうと名前を変更することになりました。まずは子どもたちにしっかり浸透させることが大事。今は忙しい世代であっても、一度昇いた経験があれば、きっとまた山を昇きたいと思える日が来ると思います。



若頭  
松田晋介さん

復活50周年という記念すべき節目にこの時代でしか出会えなかった仲間とともに山を昇けたことを大変うれしく誇りに思っています。山を昇くのは男たちですが、昇き手の奥様がたが裏方を支え、人形師さんや地域のたくさんのかたの力で昇られていることを次の未来へ大事に引き継いでいきたいと感じます。



## Fukutsu City 20th Anniversary



メンバーが学校に外向き、自身の仕事や働くことについて教壇で想いを伝えていきます。福津の中学生は、この授業を通して、好きなことに情熱を注ぎ志を持って挑戦する大人と出会い、未来の自分を少しだけ想像することが出来ます。活動は10年に及び、この授業を経験した一学生たちが、間もなく社会人として新たな一歩を踏み出す年齢になりました。この活動に込められた想いを引き継ぎ、新米仕事人として教壇に立つ姿が見られるのも夢ではありません。

# わたしたちが つなぐバトン

## 福津市商工会青年部の挑戦

### 福津の仕事人

福津市商工会青年部が毎年市内の中学校で「仕事」をテーマに授業を行う「福津の仕事人」。コミュニケーションや体験を通して、福津市で働く子どもたちの育成に挑戦しています。

大人たちの情熱と挑戦が生きるヒントとなるように  
新しい価値観が生まれ続ける現代、答えのない時代を生きる特に中学生世代の子どもたちの心には、漠然とした将来への不安や悩みが渦巻いています。そんな子どもたちが、自分の暮らす地域との関わりやつながりの中に生きるヒントを見つけ、前向きに未来を切り開いていくことを願って、福津市商工会青年部が立ち上げたのが「福津の仕事人」です。



### 挑戦しないことが失敗 失敗することも一つの経験！

設備・小売業／梅本継大さん

福津の仕事人を通して教壇に立ち、子どもたちに伝える経験は商工会青年部ならではの貴重なものです。人前で話をすることはステップアップや向上心につながりとても良い経験となっています。私自身は、創業 70 年の3代目として何気なくスタートしましたが、現在は営業から施工まで全ての工程のお客様と関わることができ、やりがいを感じています。若い人たちには、興味を持ったことに対して失敗を恐れずに挑戦してほしいと伝えています。挑戦しないことが失敗であり失敗も一つの経験となります。



### 今すぐやりたいことを 絞らなくたっていい！

大工／池尾拓さん

福津の仕事人は、自分の仕事の魅力を再確認する良い機会となっています。仕事について話すことで得た気づきは、自社の新入社員教育にも役立っています。私は特別なきっかけはなかったものの、自然と今の職に就きたいと思うようになりました。なので生徒には「今すぐやりたいことを絞らなくていい」と伝えています。よく「夢を持って」と言われると思いますが、焦る必要はなく、進学などを通じて自分の人生の可能性を広げることが大切です。世の中の多様な仕事に興味を持ってもらいたいですね。



### 福津市の子どもたちの 出会いやきっかけになるように！

革製品製造業／小川弘記さん

この活動は、地元の子どもたちにきっかけを提供することを目的としています。私自身福津市出身で、子どものときに会った古着屋が今の仕事につながりました。子どもたちにもそのような出会いがあれば願っています。やりがいを感じる瞬間は、自分が作った革製品が愛用されているのを見るときで、作り手としての喜びを感じます。若い人たちには、挑戦することの大切さを伝えたいですね。興味を深めるには、まず一歩踏み出すこと。福津市の豊かな自然環境の中で夢を育めたことに感謝しています。



### 勇気を持って 一歩踏み出してほしい！

飲食業／谷口誠さん

中学生の皆さんの中には、質問したいけどできなかった子もいたと思います。自分も昔、そんな感じでした。福津の仕事人の授業は、今まで経験したことを自分なりに伝えることができ、初心に戻ることができました。飲食業の仕事は、自分が考えた料理を提供でき、その場でお客様の反応が見えるところがやりがいですし、福津市は玄界灘とれるおいしい魚や食材があり僕は大好きです。若いうちは、不安な気持ちに悩むことがあるかもしれませんが、まずは一歩踏み込んでほしいですね。勇気を持とう！



### やった後悔よりも やらない後悔がないように！

自動車販売・修理業／櫻井将太さん

福津の仕事人は、一人でも多くの生徒に「仕事とは何か」を語る大切な時間だと思います。私は父の紹介で現在の職に就き、当初はそんなに好きではありませんでしたが、現在は独立して、お客様の喜んでいただける声に何よりやりがいを感じています。いずれは皆、就職すると思います。それが地元であれ県外であれ思いっきり働いてほしいです。そして一人でも多くの生徒に、我々青年部が伝えた言葉を思い出してほしいです。やった後悔より、やらない後悔だけはしてほしくないと思います。

## Message

福津市で  
大人になる  
君たちへ



福津の仕事人からのメッセージ



interview  
キッカケラボ  
コネクターの  
皆さん

キッカケラボは開館から3年。私たち「コネクター」は、人と人、やりたいことと地域をつなぐ存在です。立ち上げ前から、地域で活動する皆さんのヒアリングを開始し、その数は300件を超えました。その積み重ねが私たちの土台になっています。ボランティアやまちづくり、地域を学ぶ講座、SDGsやウェルビーイングを考える勉強会など、これまで福津で活躍している市民活動をさらに後押しする取り組みを実践し、登録団体は当初の3倍以上(89団体)になりました。また、地域と関わりたい人たちに「きっかけ」を作りたいと始めた「BA-School」は、定員超えが続く人気企画に。3期を終え、市内で活動を始めた卒業生もいます。さらに、参加型のコミュニティ「ふくつプレイヤーズ」では、福津の魅力を伝える商品開発や放置竹林問題を考えながらの筍ほり大会などを開催。市民の皆さんの「やってみたい」を形にすること。その一歩を後押しすることが、私たちコネクターの役割です。



キッカケ ラボ  
KIKKAKE LAB.

想  
い  
を  
つ  
な  
ぐ  
キ  
ッ  
カ  
ケ  
づ  
く  
り

# キッカケラボ



キッカケラボ  
公式ホームページ



▶人が集うさまざまな  
キッカケづくりを展開



## まちづくりの秘訣

楽しみの中にちょっと誰かのためにをプラスしよう！



interview  
ひかりのみち DMO 福津  
浄見譲さん

ひかりのみち DMO 福津は、新たな視点で福津市の観光を地域総体産業とすることを目指して設立し、2023年に正式に DMO 法人として観光庁に登録されました。この福津市の観光が持つものは何か。やはり自然を通して、美しさとともに人の心に訴えかけるものが重要で、それがブランディングだと考えました。それまで切ってはならないと言われていた宮地嶽神社の木々を美しく整えたところ、階段の一番上から相島、その向こうに沈む夕日までが大きくひらけ「光の道」は美しい夕日のスポットとして瞬く間に全国に名を馳せ年間約600万人が訪れるようになりました。これからは、周遊観光が鍵です。門前町を賑わう場所として開拓することで、各観光地への波及に必ずつながると考えています。それを津屋崎千軒や福津の海岸エリアまでつなげていきたい。福津市の魅力を集結させ、ここに住む人たちがいいまちだと誇りに思えるまちにしてい、DMO の代表として最も大事な役割だと考えています。

観  
光  
で  
地  
域  
の  
価  
値  
を  
高  
め  
る  
役  
割

# ひかりのみちDMO福津



ひかりのみち DMO  
公式ホームページ



▶地元事業者とともに  
鯛茶づけのブランド化



## まちづくりの秘訣

自分のまちをどれだけ愛するまちにできるか！



interview  
福津いいざい  
森田誠さん

福津いいざいの取り組みを始め、6年になりますが、漁師さんや農家さんたちの収益を上げる取り組みとして、お魚センターの運営や商品化、全国発信など、やっと貢献ができてきたと実感しています。ここに至るまでには、地元の漁師さんや農家さんとの関係性、信頼関係を築いていくことに大変苦労をした時期がありました。収益を上げるために考えていること、一緒にやっていきたいことを一人一人に何度も説明しながら、同時に事業者や飲食店には地元食材を活用してほしいことを伝え回りました。とにかく直接出向いて人に会い、可能性に向かって動き続けました。やっと築きあげた信頼はそれに尽きると思います。福津の新鮮でおいしい魚や野菜をどう伝えていくか。地元の漁師さんや農家さんとのさまざまな会話が商品開発に活かされています。これからも私たちが販売のプロとして、大切な食材を適正な価格で販売していくことで信頼と循環が守られていくと確信しています。



福  
津  
産  
品  
の  
流  
通  
促  
進  
の  
裏  
側

# 福津いいざい



福津いいざい  
公式ホームページ



▶福津市の新鮮な特産を  
全国へ発信



## まちづくりの秘訣

人と直接会って可能性へ向かって動き続けること！

Fukutsu City  
20th Anniversary



福津市まちづくりへの想い

## まちづくり団体

福津市には多くのまちづくり団体があり、地域のため福津市のために勢力的な活動を行っています。たくさんの人たちの幸せのために奮闘した記録と伝えたい想いがここにあります。

ま  
ち  
づ  
く  
り  
奮  
闘  
記

つ  
な  
ぐ  
バ  
ト  
ン

わ  
た  
し  
た  
ち  
が

奮闘記

## 福津いいざい

漁師や農家の所得向上を目指し、地元の特産品が市場で流通する取り組みを推進しています。福津産品を PR するイベントを開催し、地域の魅力を発信。地元経済の活性化と持続可能な農漁業の発展に寄与しています。

## ひかりのみち DMO 福津

地域の観光資源を掘り起こし、持続可能な観光振興を目指す組織です。地域の魅力を PR するため、地元事業者とコンテンツの企画を行い、旅行会社や各種メディアと連携して、観光客の誘致の先にある地域経済へのアプローチに取り組んでいます。

## キッカケラボ

「福津で何かやってみたい！」という想いを持った市民・事業者などが集まりアイデアを共有・実現するキッカケづくりの場です。「つなげる力」を活かした人起点の地域活性化を目指し、参加者同士の交流も促進しています。

メンバー紹介

(掲載学年はトークセッション開催時)



博多屋柚葉さん (高3)  
Yuzuha-Hakataya

水産高校3年生。課題魚を解決するコンテストで「アイゴ」の商品開発が全国1位を獲得。



西田明香里さん (高2)  
Akari-Nishida

津屋崎中学校時代に中学生のボランティア委員会を設立。高校生になっても地域でのボランティア活動を楽しんでいる。



岩熊心良さん (高1)  
Miro-Iwakuma

小学4年生から地域貢献の活動をはじめ、小学6年生で立ち上がったCS委員会の初代委員長。



田井中昊樹さん (中2)  
Hiroki-Tainaka

令和7年1月から福岡東中学校生徒会長に就任。キッカケラボを通じて地域農家の課題解決に奮闘。

テーマ1  
私たちの住む  
福津市のリアル



ファシリテーターは  
貴島道拓さん

2025年1月、市役所に集まってくれたのは市内でさまざまな活動を行う中高生。福津市の若者たちが何を考え、どのように奮闘し、未来を捉えているか、その素顔に迫るトークセッションを開催しました。



# Talk session

福津市の未来をつなぐ若者トークセッション

## ふくつなぎ

若者たちが等身大で語り合う  
福津市の今と未来



夢と希望を  
ミライに  
つなぐ

ふくつなぎ  
Talk session

けれどすごくうれしかったと言っていて、普段私たちにとっては当たり前になっていたけれど、やっぱり温かい地域だな、うれしいなと思うことができました。

「貴島さん」確かに、僕も最初びっくりしましたね。「挨拶してくれるのか」って。

「博多屋さん」子どもだけでなく、地域の人にもよく話かけてもらいますよね。

「田井中さん」僕もよく「どっくにくの」など話しかけられます。

「西田さん」知り合いではなくても、顔見知りぐらいの人はたくさんいますね。

「博多屋さん」地域のコミュニケーション能力がすごく高いですね。

「岩熊さん」福岡小学校では、校長先生自ら朝早くから校門に立って、挨拶の大切さを呼びかけてくれていました。

「西田さん」小・中学校でのあいさつ運動のおかげもあると思いますが、それが日常になっていることが良いと思います。

「貴島さん」自分たちでは気付けないことも福津市の良いところを周りの人が感じてくれていることも実はたくさんあるのかもしれないですね。併せてもったことだったと思うこともありますか。

「西田さん」インフラというか、バス事情が気になります。観光客にとってもですが、市内でも少し離れた地域に住んでいる祖母の家に行こうとしてもバスが1時間に1〜2本しかなく、車でないとなかなか自力では行けません。福津市には、神社や世界遺産を見に行きたいと思う人も多いと思うので、もう少し交通が発展してくれたら良いと思います。

「博多屋さん」確かに、バスは水産高校の前で大勢の人が乗って、さらに宮地嶽神社前で大勢の人が乗って、ものすごい状態になっているところもあります。

「岩熊さん」福岡駅から宮地嶽神社方面へ、スマホを見ながら歩く観光客を見ると、私もバスの便を増やしてほしいなと感じます。

「貴島さん」なるほど、いろいろな意見が出ていますね。他にはどうでしょう。

「田井中さん」僕が思うことは、福津市自体はものすごく都会でも田舎でもなく真ん中あたりに感じます。大きな病院へ行くにしても、買い物するにしても、少し車を走らせたなら北九州市と福岡市という大都市どちらにもすぐに行けて住みやすいのでとても良いと思っています。それから、福津は農業もそうですが、魚が有名。特に鯛は漁獲量が多いと聞いています。関アジ、関サバのようにブランド化をして、福津の鯛として付加価値がつけば高く売れてお金が入る。財政として市にお金が入れば、先ほどから話に出ているインフラ、バスなどにも出資できる、さらに人が増えてもつと住みやすくなるという循環ができるのではないかと思います。

「貴島さん」いろいろとつながりますね。



ブランド化と言えば、博多屋さんの活動に「アイゴ」の取り組みがありましたね。  
**「博多屋さん」** はい。アイゴは、津屋崎漁港でオキアミなどで釣りをすると一緒に釣れる魚なのですが、使えないし売れないので捨てられてしまふんです。一度刺身を食べてみたところ、ものすごくおいしかったので、もったいない。何とかおいしく食べてもらえる方法はないかということで商品開発を行いました。

**「岩熊さん」** 観光客が多いことに対してなのですが、もったいなかったらと思うこととして、来てくれることはとてもうれしいのですが、特に宮地嶽神社の祭りの後などゴミの量がすごくて、何とかならないかなと思います。あまり広まっていけないですが、福津市では、ゴミを拾って写真を撮るとポイントが貯まってイオンなどで使えるアプリもあります。もっとみんなで利用してほしいと思います。

**「西田さん」** 私も知りませんでした。せっかく良い取り組みがあっても知らない人が多いのもったいないですね。知ってもらってとても重要だと思います。

**「貴島さん」** 日常生活の中で、皆さんがいろいろな体験をしているからこそその視点、気付きがたくさん出たと思います。

立ち、イオンができ、人口が増えていきました。建物が建てられない土地は誰も買わないので、上西郷も都市化して活気あるまちにしたいです。

**「貴島さん」** 都市化した上西郷は具体的にどんなイメージでしょう。

**「田井中さん」** 企業がたくさん来てほしいというより、外で働いて、帰ってくる場所であってほしいと思います。住んでみると住みよく、人も需要も増えて活気が集まっていきたいイメージです。

**「貴島さん」** この辺りもイオンができる前、20年前は田んぼでしたから決して夢ではないですね。

## 20年後の福津市はどんなまち？

**「貴島さん」** これまで、日常の生活から福津市を振り返ってみましたが、福津市の20周年の節目にあたって、次の20年を見据えたとき、こんなまちであってほしいというのを考えてみたいと思います。

**「博多屋さん」** 福津市には、意外と子どもたちが遊べる所が少ないです。公園も古かったり、ボールを自由に使えない制限のあるところが多く、思いつき遊びができません。未来は、子どもだけでも集える施設や居場所がたくさんできてい

てほしいと思います。それから、津屋崎には、津屋崎千軒という古い街並みがありますが、そういう宮地嶽神社だけでなく、もっと奥にある良さも知ってもらいたいし、大事に残しながら、新しいものも増えていってほしいと思います。

**「西田さん」** 私は、進学するにも就職するにも、多くの人が一度福津市を出ると思うんですね。だけどまた、帰りたいと思えるまちであってほしいなと思います。

**「貴島さん」** どんなまちだったら帰って来たいと思えるでしょうね。

**「西田さん」** 私は帰って来たいと思うと思います。このまちが好きだと思えるから。そういう人が増えてほしいです。

**「貴島さん」** このまちが好きだということを感じているんでしょう。

**「博多屋さん」** 福津市は、変わっていつているところもあるけれど変わらない良さがたくさんある。それが懐かしくなって帰ってくるのではないのでしょうか。

**「西田さん」** このまちの良さはきつと離れて分かる日が来るのだと思います。

**「田井中さん」** ぶつ飛んだことを言いますが、僕は上西郷を都市化したいです。

**「田井中さん」** おおっ！

**「田井中さん」** 福岡駅の東口付近も昔は田んぼだったのを都市化したことで家が



夢と希望を  
ミライに  
つなぐ

**「岩熊さん」** 私は、環境保全活動の参加者がもっと増えてほしいと思っています。SDGsで、100年後に森林が全部なくなるといわれているのに保全活動の参加者は高齢者ばかりで若者の参加はとも少ないです。こんなに家が建つて子どもがたくさんいるのに若い人が興味を持っていないのは問題です。上西郷や津屋崎にも松林がありますが管理しきれない状況に危機感を持っていて、ボランティアももっと増えてほしいです。

**「貴島さん」** たくさんの意見が出ましたが、改めて話したいことはありますか。

**「西田さん」** 都市化というののもとても良いと思うのですが、農業など第一次産業も大事だと思うし、これから逆に需要が高まっていくものだと思うのでせっかくの福津市の良い環境を活かして、一緒に進めて

いけると良いかなと思いました。

**「貴島さん」** 一方ではなく、いろんな方向から福津市が新しく生み出されていくと良いですね。描いた未来に近づくために、どんなことができるか、最後に自分に落とし込んでみましょう。

**「博多屋さん」** 私は、今自分がやっていること、経験を後輩や下の世代に伝えていくことが大事だと思うんです。小・中学生にも分かるように大切なことを伝えていけたら良いなと思います。

**「西田さん」** 私はボランティアの活動に参加してみたからこそ、分かったことがたくさんあります。地域や人の温かさがまさにそれで、これからは、自分の見識を増やしながらかも、参加するだけでなく参加してくれる人を一人でも増やしていきたいなと思います。

**「田井中さん」** 伝えるという話が出ていますが、福岡東中ではまだ世代間で伝えられることができてないんです。今年、自分の代なので新しい開拓をして、後に残せること、できることを何でもやって盛り上げていきたいと思います。

**「岩熊さん」** 歴史や環境など大切なことを伝えるのはどうしても高齢者が多いので、もっと若い人たちが参加できるように企画を考えて自分たちの世代のボランティアを増やしていきたいなと思います。

**「貴島さん」** 今日話した未来に近づくとするとワクワクしますね。「まちづくり」と聞くと難しく感じるかもしれませんが、これからのいろいろな場所をつなぐ「まちを想うこと」を一緒にやっていけたらうれしいです。ありがとうございました。

カテゴリー

# 公共施設



FUKUTSU  
市民投票

第1位

公共施設部門

## なまずの郷

なまずを祭る神社として知られる大森宮そばの公園。本格スポーツ施設が充実しているほか、市民の憩いの場として四季を通してにぎわっています。

市民のロコミ

楽しい遊具が充実していて、駐車場や木陰のスペースが広くてとても利用しやすい公園！(40代)

市民のロコミ

散歩コースに良く、藤の季節は花と池の鯉を見ながらお弁当を広げるのが楽しみ。(60代)



遊具がたくさん！



蔵書が豊富で充実！

## 福津市立図書館

約18万点の蔵書数を誇る図書館。市民1人当たりの貸出資料数や蔵書の回転率は、県内トップクラスの水準にあります。

多世代で利用できる



5位) ぶくとびあ



4位) 津屋崎千軒民俗館 藍の家

FUKUTSU  
市民投票

第3位

ドラマの撮影地にもなった！

FUKUTSU  
市民投票

第2位



音響が素晴らしい

カメラカフェが人気！

## カメラアステージ

文化会館・図書歴史資料館からなる複合施設です。506席を有する本格的なホールと生涯学習センターがあります。

市民のロコミ

歴史も学べる展示やカフェもあり利便性が高い施設です。(20代)

# 福津

未来につなぐ

# RANKING

## 市民投票

FUKUTSU  
市民投票

第1位

自然・景観部門

## 宮地嶽神社

全国に鎮座する宮地嶽神社の総本宮です。国内外から多くの観光客が訪れています。

市民のロコミ

階段上から見参道の一本道は、光の道の時期でなくても見応え十分！(40代)

市民のロコミ

年間通して四季の花がありどの季節もきれいで見どころがあります。(40代)

FUKUTSU  
市民投票

第3位

新しい福津の魅力！



福津といえはやっぱり海！

FUKUTSU  
市民投票

第2位

白砂青松が美しい！



## 美しい海岸

全長約22kmにわたる海岸。地元住民や事業者、多くのボランティアの皆さんが力を合わせて清掃を行い、美しい海岸が保たれています。

市民のロコミ

毎日、天候によって海の色や波の高さに変化があり、見るたびに幸せな気持ちになります。(60代)

生き物や自然がいろいろ



5位) ほたるの里

人のあたたかさや伝わる



4位) 津屋崎千軒の街並み

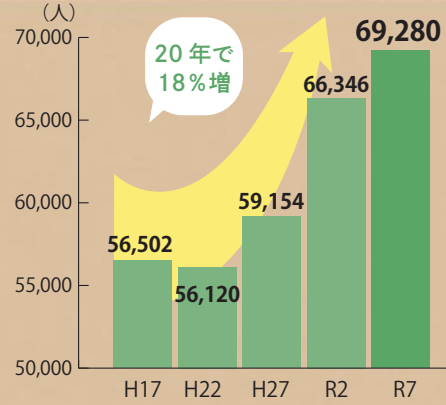
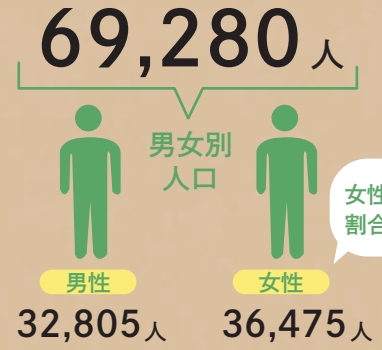
## かがみの海

干潮時に砂浜が鏡のように空を反射して神秘的な光景があらわれます。SNS映えスポットとして全国から注目を集めています。

COD (mg/l) とは？

「COD」とは、化学的酸素要求量のこと、水の汚染度を表す指標です。数値が低いほど水質が良いとされ、全国平均は1.7となっています。

出典：環境省（令和6年）



# 住みよさ

ほとんど  
田舎で都会

海が好きで  
引っ越してきた

自然と街が  
近い!

FUKUTSU  
市民投票  
第1位  
住みよさ部門

## 海が見える生活空間、自然環境の良さ

美しい海が見える暮らしは、多くの移住者の心をつかみ、また市民にとっても自然に包まれた都市の姿は大きな誇りとなっています。

市民のロコミ

海が見える暮らしはまるでリゾート。家の近くにこんなところがあるのはぜひいたくだと思います。(50代)

市民のロコミ

海も山も近く四季を身近に感じることができる自然環境が良いと思う。(40代)

通勤・通学  
しやすい!

市民のロコミ

特急も停車して、博多とも北九州とも近く交通の利便性に満足しています!(50代)

第2位  
FUKUTSU  
市民投票

## 交通の便が良い

JR 鹿児島本線「福岡駅」「東福岡駅」をはじめ、市内では西鉄バス、JR 九州バス、ふくつミニバスなどが利用できます。

福岡市中心部  
まで1時間

第3位  
FUKUTSU  
市民投票

## 商業施設が充実している

大型商業施設の開業で、生活の利便性が充実しているほか、海辺にはカフェや飲食店などでにぎわいをみせています。

映画や食事も  
楽しめる!

RANKING

あいざつや見守り  
のまち!

地元の食材が  
美味しい!



5位)  
人のつながりが深い



4位)  
おいしい地元食材



# 福津名物

FUKUTSU  
市民投票  
第1位  
福津名物部門

福津の鯛は  
有名!

## 鯛茶づけ

地元産の新鮮な真鯛をぜいたくに使った鯛茶づけは、今や福津市の名物。鯛茶づけフェアでは市内約20件の店舗が鯛茶づけを提供します。

市民のロコミ

福津市の豊かな海を感じる。あのゴマの風味の甘い醤油ダレが美味しいです。(40代)

市民のロコミ

市外のかたに「福津で何を食べたらいい?」と尋ねられたら必ず勧めています。(20代)

第2位  
FUKUTSU  
市民投票

美味しくて  
縁起が良い



## 松ヶ枝餅

商売繁盛・開運で知られる宮地嶽神社の門前町で一番人気の伝統的なお土産です。

市民のロコミ

表はカリッと、中はモチモチであんこが美味しい。ぜひ関西の友達にも食べさせてあげたい!(60代)

唯一無二の  
可愛さ!



5位)  
商売繁盛 福珠のモマ



4位)  
津屋崎人形

新鮮で美味しく  
安い!

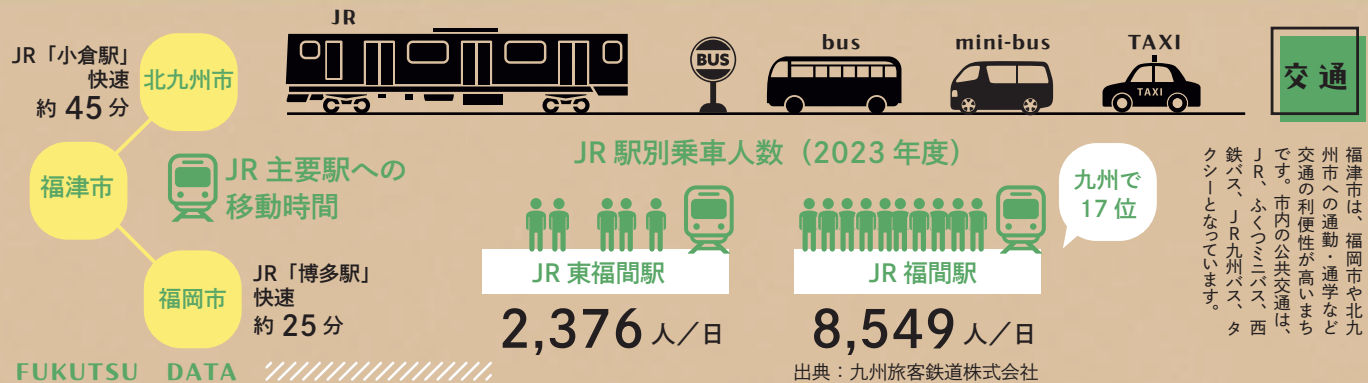


第3位  
FUKUTSU  
市民投票

## 直売所

ふれあい広場ふくま  
あんの里市  
お魚センターうみがめ

市内3カ所の直売所で、新鮮な魚介、旬の野菜や果物、季節の花々などのお買い物を楽しめます。旬に合わせたイベントも目白押しで、多くの人で賑わっています。



色濃い歴史・文化に彩られ、風光明媚でありながら都市機能も併せ持った住みよいまちである福津市は、令和7年1月24日に市制施行20周年を迎えました。

これまで少子高齢化や不況、地方分権社会の到来などのさまざまな課題を抱えながらも、今日、未来に向かって発展を続けられるのは、市民の皆さまをはじめ、数々の困難と試練に打ち克ち、本市の発展にご尽力いただきました多くの先人の皆さまのご尽力の賜物であり、心から敬意と感謝を申し上げます。

時の流れとともにまちは発展し、若い世代を中心に人口増加が進んできましたが、変わりゆく街並みに寂しさを覚える人もいるかもしれません。このまちに暮らす一人一人が地域に愛着を持ち、いきいきと暮らせる「ふるさと」を共に育んでいくためには、発展とともに守り続けなければならないものがあります。

それは、福津市の財産であり、先人の皆さまが築き、守り続けてきた「豊かな自然」や「伝統文化」そして、このまちに暮らす「人々の想い」です。目

に見える形あるものだけではなく、長い年月をかけて紡がれてきた人々の「想い」はかけがえのないものです。これらを受け継ぎ、守り、育てながら後世へと継承していかなければなりません。

この福津市市制20周年記念誌には、福津市に暮らすたくさんの方々が登場し、その思いを語っています。この記念誌が、福津市の過去、現在、そして未来へとつなぐ架け橋となるとともに、市民の皆さまが福津市への郷土愛を深め、誇りを高めていただく一助になることを心から願っています。

## 福津の未来を 皆さまとともに

### Message

福津市長  
福井 崇郎

市制20周年記念誌の  
発刊にあたって



# 20 ハタチの福津市 20 years old Fukutsu City



福津市誕生とともに産声をあげ、



ハタチになった新成人から未来へのメッセージ



「ウェルビーイング」のその先へ

私の幸せ

あなたの幸せ

その幸せのかたちは違って

このまちで幸せに暮らしたい

そう願う気持ちはきつと近い

この美しい夕日と波の音に包まれて

力強い光を浴びながら

私たちはやがて大人になる

そして

このまちで誰かにもらった優しさを

次の世代に渡して生きていく

# well-being

のその先へー

「ウェルビーイング」のその先へ

私たちは時にこうして振り返り

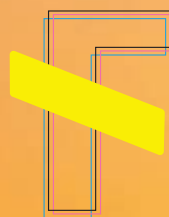
このまちで生きた

多くの人たちの心とともに

これからも幸せを越えてゆく

光の先にある未来が

美しい福津市であり続けますように



thanks

## 編集後記

福津市が誕生して 20 年。これまでの歩みを記録するとともに、人々の「想い」が詰まった活動・取り組みなどをこれから 10 年、20 年先の未来につないでいきたいという思いで、この記念誌の制作に取り組んできました。

福津市の人口は今も増え続け、間もなく 7 万人に到達しようとしています。時の流れとともに人もまちも変わってきました。世界遺産のあるまち、国の重要文化財があるまち、景色が美しいまち…。福津市になるずっと前からここにあった価値を「守り、保存しようとする人」「魅力を発見しようとする人」、他にもさまざまな「人」が関わり、つないで来たことで今の福津市があります。

そんな「人」がたくさん登場する記念誌にしたいなと、事前準備を含めて 1 年以上の時間をかけてきた甲斐あって、ほぼ全てのページに「人」が登場してくれました。改めて思い返してみると、中には「今から取材に行ってもいいですか」と即日訪問したり「こんなポーズをしてもらえませんか」と無茶なお願いをしたりしましたが、皆さん嫌な顔一つせず取材に応じてくれました。

福津市で出会った人、応援してくれる人、支えてくれる人、その「つながり」があったおかげで完成した記念誌です。登場してくれた皆さん、取材・編集に協力してくれた皆さん、本当にありがとうございました。読者でもある皆さんが改めて「福津っていい所だな」と思ってくれたらうれしいです。